

プロフィール



| | |
|------------|--------------------------------------|
| 名前 | 遠藤 壱 Endo Tsutomu |
| 所属部署 | 大阪大学 免疫学 フロンティア研究センター 感染動物実験施設 |
| 職種 | 特任助教 |
| この研究室に入った日 | 2017. 7. 1. |
| 出身地 | 神奈川県 |
| 趣味 | サッカー、ジョギング、散歩 |

インタビュー

Q1 研究者を志したきっかけは？

高校の頃から漠然と憧れてましたが、ターニングポイントは長嶋 比呂志 先生（明治大学）の研究室にいた時（学部3年生）です。

繁殖生物学会（2002年 盛岡大会）の見学に行き、学会の風景や先輩方のご発表が素敵で、自分もいつかあの場に立ってみたいと思いました。



（写真: 長嶋 比呂志 先生と）

大学院は 内藤 邦彦 先生（東京大学）の研究室で、先生方のご指導に加えて、過去の先輩方の修士・博士論文が良い研究の指針となりました。

また、学位取得後に海外に行かれた先輩方が私のキャリアモデルとなりました。



（写真: 加納 聖 先生、内藤 邦彦 先生と）

Q2 研究内容を教えてください。

大学院では卵形成（成熟）でしたが、今は精子形成です。

きっかけは 博士研究員の時です。

哺乳類の 減数分裂 開始 を発見した David C. Page 氏の研究室に在籍中、精子形成の権威の Dirk G. de Rooij 氏から8年間、観察技術などをご指導 頂いたのが ご縁です。

研究は個人の自由な発想のもとで行われますが、彼らは私の研究のアイデンティティに大きく影響しています。

彼らは師であり、良き友人です。



（写真: David C. Page氏と）

Q3 今後の方向性を教えてください。

将来的には、精子形成・卵形成の両側面から生殖細胞の性質を理解していきたいです。



(写真: Dirk G. de Rooij 氏と)

Q4 学生へのメッセージ

大学院 進学率の低下もあり、隔絶された環境で 孤独を感じる方もいらっしゃるかと思いますが、繁殖生物学会 という枠で見れば、多くの同志・先輩・後輩・先生方がおられます。

皆様も本学会を通じて、良き出会いに恵まれますよう、お祈り申し上げます。

学会で私を見かけましたら、お気軽にお声がけください。